

2022 ジュニア全日本ロード 大会報告

年に一度、年齢別の日本チャンピオンを決めるビッグイベント、全日本自転車競技選手権大会ジュニア、U17、U15の大会が3年ぶりに開催されました。

全国選抜大会に出場したことで、出場権を得ていた2年生の 塚本・橋本 大阪府自転車競技連盟の推薦を受けて2年生の渡辺が参加しました。今年の会場は京都府美山町の特設コース(ロード 1周 10.3km) を用いて行われました。

6月26日(日) 男子U17(17歳以下)/U15 塚本・渡辺 出走

午前9時10分スタート (5周=51.5km)



集団走行中の本校生徒



ゴールスプリント

レースは、U17(17歳以下)の選手88名、U15の選手21名が同時スタート。1周目からハイペースな展開となり、1周回終了時点で先頭集団は半数の60名程度となっている。塚本・渡辺はまだまだ余裕の表情で先頭集団に位置している。3周目に入り渡辺にアクシデント、前方で落車があり何とか自らの転倒を避けるも集団から大きく遅れる。一人で集団を追うも集団から2分遅れでタイムアウトとなるため、4周目走ったところで、残念ながらタイムアウト。

一方、塚本は順調に先頭集団に位置して、最終回に入る。この時点での先頭集団は約40名。気温が高い中ではあるが、補給を取ることなく余裕をもってゴールスプリントに備える。

フィニッシュ4km手前の「九鬼が坂」で集団のスピードが上がりふるい落としが始まるも集団はばらけず約30名の大集団でゴールスプリントとなった。塚本も全力でゴールスプリントに

参加するも、13位でフィニッシュ。トップとは0.01秒差という大接戦であったが、残念ながら表彰台に上がることは出来なかった。

ちなみに、平均速度は39.7 km/hのレースでした。

午前10時40分 ジュニア男子 橋本 出走 (8周=82.4 km)



緊張のスタート前



最後方で集団の様子をうかがう

定刻に130名がスタート。このクラスは18歳以下となるため、早生まれの大学1回生から2年生の12月生まれまでの選手が走っている。

レースは3周目から大学生となった三島高校出身の松井が一人で逃げる展開。序盤から集団のスピードも落ちることなくレースは進行し半分の4周目が終了したところで集団は約40名とスタート時の1/3に。6周回目で集団が松井をとらえると集団のスピードが一気に上がる。勝負どころの「九鬼が坂」では先行する集団は時速35 kmを超えるスピードで約10%の坂道を登っている。ここまで先頭集団で走っていた橋本がここで後方において行かれる。ここから何とか完走を目指して4名で集団を追うも、集団のスピードは落ちず7周回終了時にタイムアウトとなってしまった。6周回目で補給を取ることができず、1周回水分なしでの走行を強いられたのが痛かった。

今年参加の3名は全員2年生なので、次年度に期待したい。